

KANSAI * OSAKA

文化力

No. 123

2016/SPRING・春

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

特集 東京オリンピック・パラリンピック

関西・大阪の文化プログラムを考える

太下義之氏×春野恵子さん×堀井良殿

平成28年度助成先決定

日本万国博覧会記念基金

アーツサポート関西

- ・平成27年度大阪文化祭賞、関西元気文化圏賞 受賞者発表
- ・アート・アセンブリー 山村友五郎の世界
- ・大阪文化考 アート魚拓 松永正津氏



東京オリンピック・パラリンピック 関西・大阪の文化プログラムを考える

2020年の東京**オリンピック・パラリンピック**開催に向け、
今、日本各地でその**文化プログラム**が検討されている。
関西・大阪の文化力を世界に示す**絶好のチャンス**、
私たちはどのように企画し推進していくべきか。
歴代の五輪文化プログラムに詳しい**太下義之氏**と、
世界に上方の浪曲を発信する**春野恵子さん**と語り合った。



堀井良殷
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長



春野恵子さん
浪曲師 公益社団法人 浪曲親友協会 理事

3つのポイント

堀井 文化を社会の活力にしようと活動している当協会は、東京オリンピック・パラリンピック開催までの4年間を、文化プログラムの実施によって市民の文化に対する関心や取り組みがさらに高まり、社会の活性化につながる絶好の機会ととらえています。とはいえ、これをどのように展開していけばよいか、実施運営のスキームをどうつくるのか、文化庁はその財源をどれだけ確保しているのか、かつての開催国はどのように取り組んだのかなど、太下さんにお伺いしたいことがたくさんあります。まずは、文化プログラムなるものについて、ご説明いただけますか。

太下 文化プログラムについては、3つの重要なポイントがあります。1つ目は、オリンピック・パラリンピックの開催と併せて文化プログラムを実施することが、オリンピック憲章に明文化されていることです。そのため文化庁は、「文化プログラムの実施に向けた基本構想(2015年7月)」のなかで、20万件の文化イベントを実施すると謳っています。前回のロンドン大会(2012年)では17万7,717件でしたから、それを上回る史上最大規模です。2つ目は、その文化プログラムを日本全国で実施するということです。ロンドン大会では、イギリス全土1,000か所以上で文化プログラムが実施されました。文化庁の基本構想でも、「全国津々浦々で実施する」としていますから、関西地方でも、かなりの数が実施されるでしょう。3つ目は、文化プログラムは、今年から始まるということです。8月のリオデジャネイロ大会の閉会式で、東京都知事に大会旗が託された瞬間から、日本の文化プログラムが動き



太下義之氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
主席研究員

はじめると考えていいでしょう。文化庁は今年の秋頃をキックオフと位置づけ、いわば「文化・スポーツ版ダボス会議」のような世界会議の開催も予定しています。オリンピック・パラリンピックは4年に1度ですが、文化プログラムは世界のどこかで日々行われているのです。春野恵子さんたちのご活躍の機会も増えてくると思います。

春野 オリンピックって私たち浪曲師とは関係ないだろうと思っていましたが、そうじゃないんですね。2020年というと、まだ先のことに感じますが、浪曲を世界の人に知ってもらうチャンスがすぐやってくると思うと、のんびりした気持ちではいられなくなります。

太下 大事なことは、文化プログラムはオリンピックに併せた一過性の文化イベントではなく、文化で国や地域を活性化させるための礎にしなければならないということです。IOC(国際オリンピック委員会)は「レガシー(遺産)」というキーワードをととても重視していて、オリンピック・パラリンピックを開催した都市や国が、開催後にどのようなプラス効果を上げているかに注目しています。

寄付文化の醸成

堀井 20万件の文化プログラムを全国津々浦々で行うといっても、はたして文化庁はその財源を確保できるのでしょうか。日本の文化予算は、GDP比で見れば諸外国に比べてとても貧弱です。

太下 確かに文化庁への配分は政府予算の0.1%と僅かです。先進国のなかでも最低レベルでしょう。文化庁は、昨年10月に行った2016年度の概算要求で、五輪文化プログラム実施のために前年比より多く要求したのですが、各府省庁のいわゆる事業仕分けで、河野太郎行政改革担当相から「文化プログラムは五輪便乗事業」だとされ、予算の増額はほとんど叶いませんでした。

堀井 ただでさえ文化庁予算が少ないうえに、五輪の増額分まで切られてしまったんですね。

太下 そうです。しかし、国の財政支援を受けなくてもできることはたくさんあります。ロンドン五輪では、文化プログラムの大半が、国の補助金を受けていません。従って行っていた活動を、市民の手でさらに盛り上げたんです。とはいえ、オリンピックはまたとない機会ですから、文化庁にはきちんと予算を確保していただくことが大事ですし、民間セクターによる寄付文化の醸成も必要でしょう。

堀井 民間組織による文化支援については、2014年に「アーツサポート関西(ASK)」が設立され、当協会はその事務局を運営しています。ASKは発足してまだ2年ですが、この間に5,000万円もの寄付が寄せられました。現在はそれをもとに、これまで行政の支援が行き届かなかったところに

も、「関西で文化活動を行う人を支援し、文化を支えたい」という篤志家の思いを届けています。一方、行政(大阪府・市)による「大阪アーツカウンシル」という組織もあり、大阪ではこの2つが併行して活動しています。

春野 浪曲界に身を置く者としては、伝統芸能に対する国や自治体からの支援が諸外国に比べて少なすぎるように感じる一方、そうした支援に頼らず自分たちでお客様を増やす努力をしなくてはという2つの思いがあります。浪曲や文楽など、サポートがなければ立ち行かなくなる芸能もありますからね。かつて大阪では、お旦(旦那)がタニマチとなって芸能を支えてきましたが、そうした慣習が薄れてきたことも、大阪の文化や文化活動を衰退させる一因になっているように思います。



公演中の春野恵子さん
(写真提供：株式会社ファイブループス)

太下 例えば寄付大国のアメリカと比べると、日本は宗教観も税制も違いますから、同じようなことはできないでしょう。しかし、日本独自の寄付文化を促す方策があります。それが「遺贈(遺産寄付)」です。日本は超借金大国だといわれていますが、それと同じくらいの個人資産もあるといわれ、その多くが高齢者に偏っています。ご遺族の方には、相続税を納めるくらいなら遺贈して文化振興に活用していただきたい。言ってみれば、「文化の世界に名を残そう運動」ですね。

堀井 アーツサポート関西もその点に着目し、遺贈の場合は税を全額控除できる団体としての資格を受けています。例えば「浪曲の振興に役立ててほしい」というお申し出に従って、その方のお名前を冠した寄金を作らせていただきます。寄金を何年で使い切るかはご自由に決めていただければいいし、高額であればその運用益で助成することもできます。遺贈された助成金はガラス張りであり、使い道が明示されます。すでに、この制度を利用したいという打診もいくつか来ています。五輪文化プログラムにも、是非ご活用いただきたいと思っていますところなんです。

太下 そういう運動はどんどん広げていってほしいですね。また、遺贈を希望される方のなかには、どんな分野に助成し

てよいか分からない方もおられるでしょうから、助成先を提案できる文化支援の専門家や、それを行う機関やシステムが必要です。寄付を小出しに使う、公演回数を増やすだけが能ではありません。将来につながる効果的な助成を行うために、きちんとした意見を添えて、使い方を提案できなければなりません。それをするのが地域版アーツカウンシルだと思います。

堀井 春野恵子さんは、海外での浪曲公演も精力的に行っておられます。ニューヨーク公演では、その資金集めにクラウドファンディング(インターネットを利用して不特定多数の人から資金調達を行うシステム)を活用されました。

春野 浪曲を知っている人はクラウドファンディングをご存知ないし、クラウドファンディングを知っている人は浪曲をご存知ないという状況のなかで、ちゃんと集まるのかとても不安でした。海外公演を成功させたいというだけでなく、これを機に多くの人にクラウドファンディングを知ってもらいたいと思っていましたので、絶対に失敗したくありませんでした。

堀井 どれくらい集まりましたか。

春野 目標は90日間で300万円でしたが、最終的には559万円も集まりました。でも、まだまだ日本でクラウドファンディングは知られていないと思います。アメリカにはキックスター(Kickstarter: クリエイティブな活動を行いたい人や団体のために、クラウドファンディングによる資金調達を行う民間企業)という、何億円と集めて大きなプロジェクトが行える組織やシステムがありますが、このことを私がお客様に聞いても知っている人は少ない。日本人の感覚からすれば、やはり「遺贈」の方が分かりやすいですね。

堀井 向うでは英語で浪曲をされたんですね。

春野 はい。『番町皿屋敷』をしました。腰元のお菊が、家宝の皿を割ってお殿様の寵愛を確かめる話ですが、翻訳を手伝ってくれたアメリカ人の女性に、身分違いによる恋愛観の違いを理解してもらうのが大変でした。また、『神田松五郎』と



モスクワ公演での春野恵子さん
(写真提供：株式会社ファイブループス)

いう話では、子宝に恵まれない夫婦が子どもを引き取り、川の字になって寝るというシーンがありますが、これも「アメリカ人には絶対理解されない習慣なのでカットしましょう」と言われて驚きました。でも、本当に多くの人が日本文化に興味を持ち、日本語を勉強していることを知り、嬉しかったですね。

文化プログラムを盛り上げるために

堀井 イギリスでは、アーツカウンシルの財源に宝くじの売上が一部入っているようですが、日本でも、五輪文化プログラムを推進するための文化宝くじのようなものを発行してはどうかと考えます。また、大阪では行政や経済団体がカジノを含むIR(統合リゾート)の誘致に懸命ですが、反対意見もあって実際どうなるか分かりません。私どもは、これを推進するなら、その収益を文化振興に回すということをきちんと旗印に掲げてほしいと申し上げています。

太下 「宝くじ」はいいアイデアですね。私は講演などで、カジノを作るならその収益を文化振興に回すべきだと言っています。

堀井 いま一つ伺いたいのは、五輪文化プログラムを推進する仕組みや、文化プログラムであると承認する機関はどこかということです。政府が予算化し、霞ヶ関がヘッドとなって文化プログラムの認定証となるロゴマークを発行し、あるコンセプトにしたがって補助金を付けて全国的に展開されるのでしょうか。私ども民間感覚からすれば、そうした中央主導の旗振りではとても20万件は達成できないと思います。そもそも文化振興は国の補助金を待つものではなく、自分たちでやってやろうという市民の気概が原動力です。私どもは、それを形にする良い方策はないかと模索しているところです。大阪で行われるさまざまな文化活動に文化プログラムの一環であると示すロゴを冠することで、全体として統一感のある盛り上げを図ることができます。

太下 文化プログラムのコンセプトといっても、活動内容を縛るものではないと思います。そんなことをすれば20万件を達成できません。また、文化プログラムとして承認するのは、厳密に言えば組織委員会(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会)でしょう。文化プログラムの統一ロゴマークが作られるとするならば、そこから発行されます。文化プログラムとして認定するかしないかは、いろんな考え方や方法があると思いますが、例えば要件さえ満たしていれば認可されるとして、1件当たり1分で事務処理したとしても、20万分かかります。これを東京で1人の専任担当者が通常の勤務時間内で処理すると丸2年かかる計算ですから、認定業務を東京で集中して行うことは現実的ではありません。つまり、認定業務自体を地域に分散していくことが大事です。そうすれば文化プログラムを実施する現場と

も近いので、他団体との共催や助成金を使って内容を膨らませるなど、アーティストや文化団体の思いに寄り添ったアドバイスの行えるでしょう。それこそが地域版アーツカウンシルの役割になると思います。

堀井 ASKでも、助成申し込みに対して審査会が審査したり、アドバイスやフォローアップなども業務として行っています。

太下 霞ヶ関的な発想で言えば、地域のアーツカウンシルは行政の外郭団体というイメージがありますが、アーツサポート関西は純粋な民間組織ですからね。行政の委任業務を担うという形もあるでしょう。

堀井 当協会は行政と経済界、民間が一緒になって発足しましたが、その後の行政改革で行政からは補助金も人的支援も受けず、純粋に民間の賛助金だけで運営しています。ただし、大阪文化祭賞のように行政(大阪府・市)と当協会が合同で行うプロジェクトもあります。文化プログラムもそうした形で展開することもあり得るでしょう。

パートナーシップ

堀井 イギリスでは、いくつかの文化団体がパートナーシップを組んで行う「リーズ・キャンパス」という活動があるようですが、それはどのようなものですか。

太下 イギリス中部のヨークシャー地域に、「リーズ」という人口70万人ほどの都市があります。「リーズ・キャンパス」は、



目抜き通りでのダンスパフォーマンス(リーズ・キャンパス)



街頭演劇(リーズ・キャンパス)

(撮影者:太下義之氏)



このまち全体をキャンパスに見立て、ここを拠点に活動するさまざまな分野の文化団体やアーティストがネットワークを組み、ひとつの大きな文化プロジェクトを展開するものです。2012年のロンドンオリンピックを契機に始まり、ヨークシャー地域で今も

続けられています。東京オリンピックも、そうしたネットワークをつくるきっかけになるでしょう。また、1992年のバルセロナオリンピックでは、スペイン・カタルーニャ州の人たちはオリンピックの開催年だけ文化プログラムを実施するのはもったいないと考え、1988年のソウルオリンピックが終わったときから1992年のオリンピック開催まで、ずっと続けています。現代美術館を建てたり、選手村の跡地を住宅エリアにして若者の人気を得るなど、さまざまな仕掛けで観光客を増やし、ホテルやレストランなどの商業施設も増えて、まちを再生させました。大阪でも、2020年に向けて文化でもう一度都市を再生させるんだという意気込みが大事ですね。浪曲のように、演者が物語を語り、観客がイメージを働かせて楽しむような、演者と観客が半分ずつ共同で作り上げる芸能は世界にもあまり例がありませんから、大阪の独特な芸能文化を世界に発信するチャンスです。

春野 私が東京から大阪に来たとき、大阪には立っただけでも地面から文化や歴史を吸収できるような感覚を持ちました。そんな大阪の文化風土を伝えるためにも、気合いを入れたいですね。

堀井 今やSNSで情報はすぐに広がりますから、浪曲の面白さや春野恵子さんのような若手浪曲師が注目されるような、新しい流れも作りやすい。そのためにも、浪曲であれ、オペラであれ、音楽であれ、志ある文化団体がパートナーシップを組んで、東京にはできない関西・大阪ならではの文化プログラムを行う仕組みが必要です。

最後のチャンス

太下 メディアと文化の関係でいえば、かつて浪曲はレコード産業やラジオ放送の興隆を支えたといえるでしょう。そのように浪曲は、メディアの変化の最先端にありましたから、そのマインドを取り返すチャンスでもあります。

堀井 浪曲界をはじめ、伝統芸能の世界では慢性的な後

継者不足に悩んでおられると聞いています。だから文化プログラムを契機に、そうした後継者も増えてほしいという思いもあります。

太下 芸術や芸能で生計を立てるのは難しいというのが20世紀の常識でした。しかし、そういう状況がずっと続いたら、後継者はいなくなり、文化は継承されません。文化にかかわる職業を持続可能な社会にしなくてはならないのです。文化庁は第4次基本方針(2015年5月22日閣議決定)に、2020年の東京オリンピックを契機として、「文化芸術に従事する者が、安心して希望を持ちながら働いていける」という状況をつくると明記しています。つまり、2020年までに日本の文化状況自体を大きく変革しようとしているのです。現在の人口減少の状況から考えれば、これが日本の文化状況を変える最後のチャンスとなるでしょう。

堀井 まさにその通りです。

太下 1964年の東京オリンピックのときは、「グラフィックデザイナー」という職業が日本で広く認知されました。グラフィックデザイナーの亀倉雄策さんが、陸上選手や競泳選手をモチーフにしたインパクトの強い五輪公式ポスターを作り、多くの人々がビジュアルメッセージの大切さを理解したのです。以来、行政も民間企業もポスターにお金をかけるようになり、グラフィックデザイナーが職業として確立し、社会に定着しました。これが1964年東京オリンピックのレガシーなのだと思います。2020年もそうした大きな文化的変化が起ってほしいし、そうでないとだめですね。

堀井 オリンピックというと、大抵「総合芸術監督」という人が任命されますが、地域の文化プログラムにまで、そうした役職は必要なのでしょうか。

太下 開会式や閉会式を演出する芸術監督は、直近2大会の傾向があります。2008年の北京大会はチャン・イーモウ氏、2012年のロンドン大会はダニー・ボイル氏で、どちらも開催国の映画監督でした。開会式や閉会式はともにお金がかかりますし、多くのクリエイターやアーティストをまとめ上げなくてはなりません。それができる人として、多くのお金や人を動かすのに慣れた映画監督が選ばれたのでしょう。とはいえ、地域に必要なのは、芸術を支援する専門家です。支援されるのはアーティストのほうで、支援する側にはアーティスト以外の文化の専門家が必要でしょう。

準備進む各地の状況

堀井 京都は文化プログラムに早くから取り組んでいるようですが、現在、日本各地ではどのような取り組み状況でしょうか。

太下 ホストである東京都は、文化プログラムのリーディングプロジェクトを2つ行うと宣言しています。1つは演出家の

野田秀樹氏のプロデュースで、国内外のアーティストと交流する「東京キャラバン」で、もう1つはアーティストの日比野克彦氏がプロデュースする「TURN(ターン)」という障がい者を含む一般市民とアーティストの交流イベントです。静岡県では川勝平太知事がアーツカウンシルの設立と文化プログラムの推進を宣言されました。新潟市や前橋市もアーツカウンシルの設立を検討されていますし、沖縄県でも沖縄版アーツカウンシルの設立に前向きです。奈良市は「2016年東アジア文化都市」の開催都市として活動されています。奈良、京都の両市は、当然ながら文化プログラムを視野に入れて活動を展開されるでしょう。

堀井 大阪では、東京オリンピックの翌年の2021年に、生涯スポーツの世界大会である「関西ワールドマスタースゲーム」が開催されます。2017年と2021年には、国内外の食文化を発信する4年に1度の食の祭典「食博覧会」を開催します。これらをオリンピックの文化プログラムと関連づけて、2021年まで文化による一層の盛り上げを狙っています。

太下 どちらもいいタイミングですね。とくに日本の「食」に対する外国人の関心は高いです。昨年開催されたミラノ万博では、食をテーマにした日本館に入館するのに8~9時間待ちという状態でした。「食博覧会」は文化プログラムとしてうってつけですね。

春野 私もミラノ万博に行きましたが、イタリア人がそこまでするほど、日本の食に対する関心の大きさにとても驚きました。

太下 そこで疑問に思ったのが、どうして日本にミラノ万博の「日本館」のような施設がないのかということです。日本に来る外国人観光客がどんどん増えているのに、日本の食文

化を分かりやすく紹介する施設がないとは思議です。入場料を払って万博の日本館に並ぶほどですから、民間事業としても十分採算がとれるでしょう。

春野 ニューヨーク公演のときも、現地で世界の食文化を紹介するイベントがあり、日本のだし文化や堺の包丁などが紹介され、多くの人が集まっていました。

太下 日本の伝統芸能を紹介する施設があってもいい。

春野 山本能楽堂が「上方伝統芸能ショー」という企画で、能・狂言、文楽、落語、狂言、女道楽、お座敷芸などを、それぞれ15分ずつぐらいショーケース的に上演されているのがありますが、常設でなければ観光客の方に観ていただく機会はぐんと減りますね。

太下 そういう施設が常設されていると、若手の研鑽の場にもなりますね。さらには多言語対応にするだけでなく、日本の古典芸能を外国人に分かりやすいように説明することも必要です。外国人に「日本の重要無形文化財だから」といっても理解してもらえませんから、例えば「能は余分な動きを究極まで削った結果、あれほどゆっくりした動きになる」といったように分かりやすく解説することが必要です。今の子どもたちが後期高齢者になる頃には、日本の人口は現在の半分になっているだろうといわれています。そのとき日本人の幸せの価値観は、私たちが生きた時代とは大きく変わっていると思いますが、日本の文化が外国から尊敬され、人口では世界のマイノリティーでも、文化的には矜持を持って生きてほしいと思います。

堀井 大阪は数々の伝統芸能を育んできた一方、北前船がもたらした全国各地の文化や世界各国からの文化が結節し、独自の新たな文化を育んできた土地柄でもあります。そ



うした文化の多様性と寛容性を重視しつつ、当協会はオー
ル大阪・関西のミッションの推進役として、東京オリンピック・
パラリンピックの文化プログラムの推進に参画してまいりた
と思っています。本日はどうもありがとうございました。



太下 義之 (おおした よしゆき)氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員
公益社団法人日展理事、公益財団法人静岡県舞台芸術セ
ンター (SPAC) 評議員、公益社団法人企業メセナ協議会監
事、文化経済学会<日本>理事、文化政策学会理事、コン
テンツ学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表、文化庁
文化審議会文化政策部会委員、東京芸術文化評議会委
員、大阪府・大阪市特別参与、沖縄文化活性化・創造発
信支援事業 (沖縄版アーツカウンシル) アドバイザリーボード
委員、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、新潟市文化ス
ポーツコミッションアドバイザー、文化情報の整備と活用100
人委員会委員、著作権保護期間の延長問題を考えるフォー
ラム発起人、など文化政策関連の役職を多数兼務。

春野 恵子 (はるの けいこ)さん

浪曲師 公益社団法人浪曲親友協会 理事
東京大学卒業後、『進め!電波少年』(日本テレビ)の企画に
おいて、家庭教師・ケイコ先生としてデビュー。その後、タレン
ト・女優としての活動を経て、2003年、二代目春野百合子
に弟子入り志願、2006年に初舞台と浪曲師としての活動を
はじめ、全国各地で公演を重ねる。また、2014年初の海外公
演をニューヨークで行うなど活動を世界に広げている。2012
年「咲くやこの花賞」大衆芸能部門受賞。

関西各府県の主な事業予定(2016~2022年)

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
				●東京オリンピック・ パラリンピック		
> オリンピック文化プログラム <						
<ul style="list-style-type: none"> ●与謝蕪村生誕300年 ●神戸空港開港10周年 ●伊勢志摩サミット ●スポーツ・文化・ワールド・フォーラム ●百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録運動 参議院選挙 (リオデジャネイロオリンピック) 	<ul style="list-style-type: none"> ●食博覧会2017 ●大津宮遷宮1350年 ●大丸創業300年 ●大政奉還150年 ●神戸港開港150年 ●関西・大阪21世紀協会設立35周年 兵庫県知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●薬師寺遷寺1300年 ●春日大社創建1250年 ●平清盛生誕900年 ●西行生誕900年 ●明治維新150年 ●大阪港開港150年 ●大阪市中央公会堂開館100年 ●「古都奈良」世界遺産登録20周年 京都府知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●長命寺創建1400年 ●グリコ創業100年 ●ラグビーワールドカップ 参議院選挙 統一地方選挙 大阪府知事 大阪市長選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本書紀編纂1300年 ●大阪城修築400年 ●大阪万博50年 ●近鉄難波線開業50年 	<ul style="list-style-type: none"> ●関西ワールドマスタースターズゲーム ●食博覧会2021 ●比叡山開創、最澄1200年遠忌 ●大阪造幣局創業150年 ●大阪大学創立90周年 兵庫県知事選挙 	<ul style="list-style-type: none"> ●聖徳太子1400年遠忌 ●北陸新幹線敦賀延伸 ●関西・大阪21世紀協会設立40周年

大阪府内全公演の中から 吉田玉男さんらに優秀賞などを贈呈

大阪の文化・芸術分野で際立った活躍をし、優れた公演を行った人や団体を顕彰する大阪文化祭賞(主催：大阪府、大阪市、関西・大阪21世協会)。年間を通して大阪府内で開催された全ての公演を対象とし、「伝統芸能・邦舞・邦楽」「現代演劇・大衆芸能」「洋舞・洋楽」の各部門の中から、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れている75公演が推薦され、最終審査の結果、平成27(2015)年度の優秀賞および奨励賞が決定した。

優秀賞は文楽人形遣いの吉田玉男さんほか2団体、奨励賞は歌舞伎俳優の中村耆太郎さん、女優の川奈美弥生さんほか2団体に贈られた。吉田玉男さんは2015年4月に師匠の名跡である吉田玉男を襲名し、国立文楽劇場(大阪)と国立劇場(東京)で「一谷嫩軍記・熊谷陣屋の段」の主人公・熊谷次郎直実を遣い襲名披露狂言を上演。その演技が、「初代が練り上げた型をしっかりと継承しつつ、時代物の大役を力強く理知的に遣い、その名跡にふさわしいスケールの大きな舞台を繰り広げた。人間の心の奥底を浮き彫りにする、端正で品格漂う芸風は、まさしく師匠譲り」と高く評価された。本年2月24日の賞贈呈式(リーガロイヤルNCB：大阪市北区)で、新井純大阪府副知事から表彰を受けた吉田玉男さんは、「襲名披露公演では多くのお客様にご覧いただき、亡き師匠の追善にもなった。歴史ある大阪文化祭賞をいただき、これを励みに今後も精進したい」と喜びを語った。賞贈呈式では、奨励賞を受賞した日本センチュリー交響楽団と堺シティオペラ一般社団法人による受賞記念公演も行われた。

大阪文化祭賞は1963年に創設され、今年度は第52回。



堺シティオペラ一般社団法人による受賞記念公演
(G.ビゼー作曲/オペラ「カルメン」より)

2014年度からは従来の5~6月開催公演のエントリー制を改め、大阪府内での全公演が対象となった。審査は、これまで通り関西の著名な芸術家や文化人、ジャーナリ



日本センチュリー交響楽団による受賞記念公演
(G.ガーシュイン作曲/A.テージ編曲：ガーシュインメドレー)



二代目吉田玉男さんと文楽人形(賞贈呈式にて)

ストラが行っている。大阪文化祭賞運営委員会の堀井良股会長は、贈呈式の挨拶で、「大阪は優れた文化人、芸能人を輩出する土壌がある。大阪文化祭賞を受賞された方々は、その新たな歴史をつくられることだろう。ますますのご活躍を期待する」と受賞者を讃えた。

平成27(2015)年度の各賞受賞者と受賞公演

■優秀賞(副賞15万円)

- ・二代目 吉田玉男
四月文楽公演 二代目吉田玉男 襲名披露狂言「一谷嫩軍記」
- ・劇団☆新感線
2015年劇団☆新感線35周年
オールスターチャンピオンまつり「五右衛門vs轟天」
- ・佐々木美智子バレエ団
2015年 佐々木美智子バレエ団「アナーキ」宿命 ノートルダム・ド・パリより

■奨励賞(副賞5万円)

- ・中村耆太郎
「『引窓』のお早」をはじめとした1年間の活動
- ・川奈美弥生
松竹新喜劇錦秋公演「はるかなり道頓堀」川奈美弥生の演技
- ・日本センチュリー交響楽団
日本センチュリー交響楽団 いずみ定期演奏会 No.28
- ・堺シティオペラ一般社団法人
堺シティオペラ第30回記念定期公演「カルメン」 (敬称略)



受賞者(前列)と主催者および審査委員長(後列)

平成28(2016)年度 日本万国博覧会記念基金事業

国内外62事業に総額1億円の 助成を決定

昨年7月から9月に公募した平成28(2016)年度の日本万国博覧会記念基金(略称:万博記念基金)の助成事業が、国内外62事業・総額1億円で決定しました(p11参照)。

募集にあたっては、大阪万博の「人類の進歩と調和」を基本理念とした国際相互理解促進活動および文化的活動を対象に、「国際文化交流」や「日本の伝統文化」を

重点テーマとして公募したところ、国内外から216事業の申請がありました(前年度は218事業:p10参照)。これら申請事業は、外部委員からなる万博記念基金事業審査会での審査を経て、若者や留学生を対象とした次世代人材の育成につながる事業を中心に、多分野、広範囲にわたる助成事業を決定しました。

採択事業紹介(一例)

事業名: 2017年模擬国連会議全米大会第34代日本代表団派遣事業

事業者: 模擬国連会議全米大会日本代表団派遣事業運営局

助成額: 100万円

実施地: アメリカ・ニューヨーク

実施期間: 2017年3月4日~24日

学生の国際問題に対する興味、理解の促進、国際社会で活躍する人材の育成、日本における模擬国連活動の普及・発展促進を目的として、ニューヨークで毎年春に開かれる模擬国連会議全米大会に日本から参加者を派遣する。



(写真提供: 模擬国連会議全米大会日本代表団派遣事業運営局)

事業名: Osaka – The capital of performing arts in Japan !

事業者: 公益財団法人 山本能楽堂

助成額: 140万円

実施地: 大阪府

実施期間: 2016年10月21日~

(予定) 2017年3月31日(内5日間)

上方伝統芸能である能、狂言、文楽、上方舞、上方落語、上方講談、浪曲などの中から、芸能のなじみやすい部分のみを「ええとこどり」で次々と上演。海外からの留学生を対象に、すべての公演を英語で司会・解説し、大阪の本来の姿である「芸能の都」として

の側面を知ってもらい、日本で育まれた伝統芸能の魅力を体感してもらう。



(写真提供: 公益財団法人 山本能楽堂)

事業名：ウェリントン・ジャパン・ウィーク2016

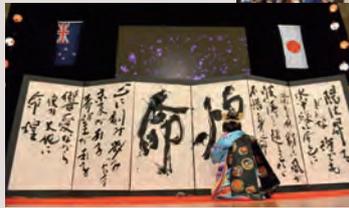
事業者：ウェリントン市議会(ニュージーランド)

助成額：260万円

実施地：ニュージーランド・ウェリントン

実施期間：2016年11月24日～30日

ニュージーランドの人々が日本文化に触れ、受け入れる機会を提供。ウェリントンと日本の交流をさらに深めるため、日本文化の紹介や日本・ニュージーランド企業間セミナーなど、ジャパンウィークとして1週間イベントを開催する。



(写真提供:ウェリントン市議会)

事業名：北海道オリジナル新作人形浄瑠璃の制作および人形浄瑠璃公演事業

事業者：さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座

助成額：250万円

実施地：北海道

実施期間：2016年10月1日～2017年3月5日

北海道ゆかりの題材を取り上げた新作人形浄瑠璃作品を制作・上演。北海道ではなじみの少ない伝統人形芝居に対して、多くの方々の興味や関心を引き出し、日本の伝統芸能の良さを伝えることと併せ、北海道の新しい文化を創造・発信する。



(写真提供:さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座)

事業名：U-35 35歳以下の若手建築家による建築の展覧会 2016

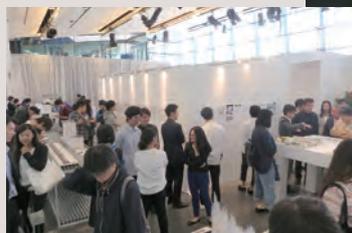
事業者：特定非営利活動法人 アートアンドアーキテクトフェスタ

助成額：100万円

実施地：大阪府

実施期間：2016年10月16日～31日

若手建築家に発表の機会を与えることを目的として、現在および過去に手がけた建築プロジェクトのプレゼンテーションを中心に、建築模型やドローイング、写真、映像など、さまざまな手法を用いて展覧会を実施する。



(写真提供:特定非営利活動法人 アートアンドアーキテクトフェスタ)

申請・採択状況(前年度比較)

	申請				採択			
	平成27年度		平成28年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	101	3億1,845万円	104	3億1,235万円	25	5,210万円	25	5,040万円
	60	1億9,692万円	56	1億6,267万円	12	2,250万円	15	2,540万円
	12	4,444万円	9	3,261万円	1	150万円	1	100万円
日本の伝統文化の伝承および振興活動	16	3,659万円	20	3,834万円	8	990万円	10	1,090万円
	29	4,687万円	27	5,079万円	14	1,400万円	11	1,230万円
合計	218	6億4,327万円	216	5億9,676万円	60	1億円	62	1億円

平成28年度 日本万国博覧会記念基金助成事業 交付決定事業者一覧 (※印は本年度の重点事業)

事業者名	事業名	助成金額(万円)
※国際文化交流、国際親善に寄与する活動		
王立植物園キューガーデン財団および友の会(イギリス)	シャーリー・シャーウッド植物画ギャラリーでのフローラ・ジャポニカ展示会	260
公益財団法人 大和文華館	特別展 呉越国一西湖に育まれた文化の粋美(仮称)	270
財団法人 シーボルトハウス(オランダ)	第10回国際シーボルトコレクション会議(シーボルト没後150年記念大会)	200
モルドバ日本交流財団(モルドバ)	「モルドバ共和国における日本語講座の開催および日本文化の紹介」および「モルドバ共和国における、最先端テクノロジー使用での日本語学習の向上および促進、最適学習・研究環境の提供」	390
特定非営利活動法人 エナジーフィールド	BIWAKOピエンナーレ2016を軸とした国際文化交流および伝統文化の継承	240
認定特定非営利活動法人 ミュージック・シェアリング	ICEP(インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム)2016	190
公益財団法人 山本能楽堂	Osaka - The capital of performing arts in Japan!	140
ウェリントン市議会(ニュージーランド)	ウェリントン・ジャパン・ウィーク2016	260
公益財団法人 東洋文庫	ロシア革命100周年記念特別展示「日本人の見たロシア、ロシア人の見た日本」	260
一般社団法人 ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン	ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン ヨコハマ2016	250
トビリシ市役所(ジョージア)	トビリシ市日本庭園	560
東京藝術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会	東京藝術大学アフガニスタン特別企画展	250
公益財団法人 埼玉県芸術文化振興財団	日本昔ばなしのダンス ニューヨーク公演	240
特定非営利活動法人 バンゲア	「ICT×アート」協働制作を通して学ぶ児童のための多文化共生サマースクール	170
公益財団法人 十四世六平太記念財団	An invitation to noh(能への招待)	100
International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders	International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2017	100
一般社団法人 三陸国際交流協会	東北と世界を結ぶ祭博2016	220
日本国際詩人協会	JUNPA設立5周年記念 ポエトリーフェスティバル	100
ザ・マート・ギャラリー(アイルランド)	澤田知子@マート・ギャラリー	100
模擬国連会議全米大会 日本代表団派遣事業運営局	2017年模擬国連会議全米大会第34代日本代表団派遣事業	100
一般社団法人 KYOTOGRAPIE	第4回KYOTOGRAPIE京都国際写真祭	190
公益社団法人 日本オーケストラ連盟	オーケストラ・サミットinジャパン2016 アジア太平洋地域のオーケストラ ～ミッションのその先へ～	140
一般社団法人 吹田にぎわい観光協会	万博記念公園日本庭園での日本の伝統文化体験およびインバウンド対応育成事業	50
特定非営利活動法人 エデュケーションガーディアンシップグループ	第21回海外高校生による日本語スピーチコンテストおよび青少年のための異文化交流プログラム	120
特定非営利活動法人 東京TVフォーラム	Tokyo Docs 2016	140
学術、教育、社会福祉、医療および保健衛生に関する国際的な活動		
第13回国際尿路結石症学会	第13回国際尿路結石症学会	190
公益社団法人 電気化学会キャパシタ技術委員会	第5回先端キャパシタ技術国際会議(ICAC2016)開催事業	190
IIIAE2016世界会議実行委員会	IIIAE2016世界会議	190
第20回均一系触媒国際会議組織委員会	第20回均一系触媒国際会議	180
第14回酵母国際会議組織委員会	第14回酵母国際会議	180
第5回妊娠前・胎生期・小児期における環境と発育・健康影響に関する国際会議組織委員会	第5回妊娠前・胎生期・小児期における環境と発育・健康影響に関する国際会議	180
第17回嗅覚・味覚国際シンポジウム 組織委員会	第17回嗅覚・味覚国際シンポジウム	180
国際対がん連合日本委員会	UICC国際がん会議(1966-Tokyo)開催50周年記念国際シンポジウム	180
照明学会100周年事業LS15実行委員会	第15回照明の科学と技術に関する国際シンポジウム	120
2016年線虫神経生物学国際集會実行委員会	2016年線虫神経生物学国際集會・名古屋大学神経回路国際シンポジウム合同集會	180
日本自殺予防学会	第7回国際自殺予防学会 アジア・太平洋地域大会 第40回日本自殺予防学会総会	180
公益社団法人 日本動物学会	第22回国際動物学会会議および第87回日本動物学会年會合同大会	180
精密工学会ライフサイクルエンジニアリング専門委員会	第24回 ライフサイクルエンジニアリングに関する国際生産工学会アカデミー会議	180
日本希土類学会	希土類2016札幌、日本	110
第14回「宇宙と元素」国際シンポジウム組織委員会	国際会議「宇宙と元素」	120
自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動		
日本LCA学会	第12回エコバランス国際会議	100
※日本の伝統文化の伝承および振興活動		
さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座	北海道オリジナル新作人形浄瑠璃の制作および人形浄瑠璃公演事業	250
大阪新能委員会	第60回 大阪新能	100
特定非営利活動法人 和歌の浦万葉新能の会	第18回 和歌の浦 万葉新能	100
国立民族学博物館	国立民族学博物館 平成28年度特別展「見世物一騙るカラダ 騙るモノー」(仮称)	200
特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座	『文楽の文字』(仮称)出版事業	180
春江大好きプロジェクト	第6回子ども落語笑学校	40
能楽文化振興協会	『天満』街遊び 伝統の美にふれる ～知って、歩いて、食べて、楽しむ 能楽講座～	50
さんだ文化芸術コミュニティ協会	さんだ花の宴 一茶会と文楽が織りなす伝統文化の競演	30
談山神社呼子鳥の会	能舞「多武峰」	80
公益財団法人 石川県音楽文化振興事業団	いしかわ子ども邦楽アンサンブル	60
芸術および地域文化に関する活動		
特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ	U-35 35歳以下の若手建築家による建築の展覧会2016	100
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団	世界のおいしい絵本展	100
一般社団法人 関西環境開発センター	日本のモダニズム建築の意義と保存についてのシンポジウム	100
特定非営利活動法人 関西フィルハーモニー管弦楽団	関西フィルハーモニー管弦楽団 第273回定期演奏会	180
科学の祭典実行委員会野外実験班	理科実験野外教室	100
アートエリアB1運営委員会	鉄道芸術祭vol.6 「ストラクチャーの冒険」(仮)	180
関西吹奏楽連盟	プラスエキスポ'16	180
一般社団法人 大阪コレgium・ムジクム	大阪コレgium・ムジクム演奏会(大阪ハインリッヒ・シュツ室内合唱団第51回定期演奏会)第26回現代音楽シリーズ	70
芦屋市立美術博物館	吉原治良展(仮称)	100
一般社団法人 大阪市音楽団	第114～116回定期演奏会	50
丹波ささやま人形劇フェスタ実行委員会	丹波ささやま人形劇フェスタ	70

アーツサポート関西

視 察 報 告

平成27(2015)年度のアーツサポート関西の公募助成事業は、26件・総額975万円でした。その中の視察報告の一部をご紹介します。

ディズニー美術

事業者：KUNST ARZT
場 所：ギャラリー KUNST ARZT(京都・東山区)
助成額：40万円
視察日：2015年5月9日

この展覧会は、ディズニーをテーマにしているものの、そのキャラクターをそのまま作品化するのではなく、ディズニーという存在が及ぼす思想的、社会的、政治的な背景を現代美術のフィルターを通して作品化し、展示するという、実験性の高い企画でした。展示物で目に付いたのは、福田美蘭氏の作品「誰が袖図」。衣紋掛けに衣装を掛けた日本の伝統的な図柄、「誰が袖図屏風」を模したのですが、そこに掛かる衣装は、ディズニーキャラクターたちが着ていた衣服で、人物や動物は描かれていません。壁には、ミッキーマウスの首から切られたいくつもの頭部がすべて逆さに吊るされ、鎖付きのがまぐちと



なっています。また、胴体部分を寄せ集めて一つの塊にしたシュールな作品など、ディズニーのイメージをアートの視点から変容させたものが多く出展されました。展覧会に関連するシンポジウムでは、芸術と著作権法、商標法について海外の状況なども含めた意見交換が行われました。

ANTIBODIES Collective「DUGONG」公演

事業者：ANTIBO HQ
場 所：元・立誠小学校(京都・中京区)
助成額：70万円
視察日：2015年10月24日

ANTIBODIES Collectiveは、ダンス、映像、音楽、照明、美術など、さまざまな分野のアーティスト集団。旧・立誠小学校の講堂や教室、廊下などが舞台で、約100人の観客が意図せず教室や廊下を移動させられ、ロングドレスを着た女性や、おかめの面をかぶった女性、軍服姿の男性、着物姿の女性、ミニドレスの女性、真っ赤なスーツ姿のビジネスウーマン風の女性など10数人の出演者が、観客の間を縫って動き回ります。ロングドレスの女性は背筋を伸ばして遠くを見ながら颯爽と歩き、おかめの面の女性は腰をかがめて踊るように動き回ります。ミニドレスの2人の女性は、時々取っ組み合いのけんかをしながら移動します。こうして観客はさまざまな部屋へ誘われ、気がつくとも観客も演者たちとともに行き交い、教室や廊



(写真：井上嘉和)

下の間を回遊。そのため他の観客を演者と思わされてしまう瞬間が度々ありました。スタート地点の講堂に戻ってくるまでの1時間15分、セリフは一切なく、映像、照明、音、さまざまな物体、装置、動きで構成された空間で、誰に指示されるわけでもなく、矢印で先行を示されるわけでもなく、とはいえ自分の意志だけで動いていたわけでもなく、観客は摩訶不思議な体験をしました。

その他、視察報告の詳細はASKのホームページに掲載しています。

アーツサポート関西

検索

助成に関する受付・お問合せ

アートサポート関西 事務局
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階

TEL 06-7507-2004 FAX 06-7507-5945

Email ask@osaka21.or.jp



平成28(2016)年度 公募助成事業決定

15事業に総額610万円を助成 厳しい環境の中で活動するアーティストを支援

アーツサポート関西(ASK)は、市民が力を合わせて芸術・文化に寄り添い、育てていく取り組みとして、2014年4月に発足しました。公募助成事業の募集も2回目となりましたが、寄付金の集まりが1年目に比べ減ったため、2016年度実施事業の助成総額は610万円と2015年度の62.5%にとどまりました。応募受付は、昨年11月～12月末までで、「美術・デザイン」「音楽」「舞台芸術」の3分野と個別寄金で行い、133件の応募がありました。この中から専門家による審査を経て15件の助成先(p14)が決まり、4月以降、順次助成金が交付されます。

ASKでは、関西に拠点を置くアーティストを中心に支援していますが、多くの若いアーティストたちは、日々、困難に直面しながらも、新しい表現の可能性を求めて創作活動を続けています。芸術・文化を取り巻く環境は、関西

とくに大阪において極めて厳しい状況です。一般的に公演や展覧会を開催しても、黒字になるケースはほとんどありません。それでも若いアーティストたちは、まさに人生をかけて必死に取り組んでいます。こうした人々を皆さまの浄財で支援しようというのがASKの活動です。

助成先に決まった15の団体・個人は、いずれも審査基準の「社会的に広く認知されていないものの、実力が国際的な水準に達しているもの、もしくはその潜在性を有しているもの」「実力が既存の芸術・文化の枠組みを著しく向上させるもの、もしくはその潜在性を有しているもの」という条件に合致しており、関西の芸術・文化の発展に寄与すると期待されるものばかりです。機会を見つけて、公演や展覧会の会場に足を運び、可能性に挑戦し続けているアーティストたちを応援してください。

採択事業紹介(一例)

舞台芸術分野

事業名：**EGGORE (ネリヤカナヤ)** /
「描ク式」(無機質な衝動)

事業者：久原鉄秀

実施日：9月～10月

場所：中津Vi-code(大阪)、ザ・スズナリ(東京)

助成額：80万円

現代のエレクトロサウンドと民族楽器が生で演奏される中、ダンサーであり画家である久原鉄秀さんが、踊りながら大きな画面に作品を描く「舞描」のパフォーマンスを披露する。手のひらに絵の具をつけて画面に描く動作が、踊りとして完成された動きとなり、その手で描きだされる鳥や魚や動物などが大きな画面に躍動して、作品として仕上がっていく迫力あるパフォーマンスは、観る人に衝撃と感動を与える。



(写真：bozzo)

美術・デザイン分野

事業名：個展「橙」

事業者：濱脇 奏
 実施日：8月11～21日
 場 所：あかりの鹿児資料館(兵庫県加古川市)
 助成額：30万円

現在、デュッセルドルフ美術大学で学ぶ濱脇奏さんは、「楽しい、おもしろい」が「感じる、考える」として代わっている日本において、芸術に親しむ機会を増や

し、自分の作品に触れてもらうことで、コンテンポラリーアートの地域への展開に貢献したいと考えている。会場となる「あかりの鹿児資料館」には、江戸から明治にかけての照明器具が展示されており、濱脇さんはこの資料館のテーマである「光」を自分流に解釈して作品を作り、それを展示する資料館も含めた全体を作品化して展示する。

音楽分野

事業名：オーギュスタン・デュメイのレッスン受講

事業者：内尾文香
 実施日：4～9月
 場 所：ベルギー・ブリュッセル
 助成額：20万円

今世紀最高のバイオリニストの一人と言われ関西フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めるオーギュスタン・デュメイ氏が、「是非紹介したい若い才能」と高い評価を与えている内尾文香さんに、ブリュッセルでレッスンを受けるよう提案している。昨年東京芸大に入学した内尾さんにとっては、貴重な体験となる。今秋の9月30日には、いずみホール(大阪市中央区)において、デュメイ氏が指揮する関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートでシベリウスのバイオリン協奏曲を演奏する予定。



平成28(2016)年度 アーツサポート関西 助成先 一般助成(交付額順)

分野	申請者	活動名 <活動期間>	交付額(万円)
美術・デザイン	7つの船2016実行委員会	7つの船2016(仮)<11月末～12月予定>	80
舞台芸術	久原鉄秀	EGGORE(ネリヤカナヤ)/「描ク式」(無機質な衝動) <9～10月>	80
舞台芸術	極東退屈道場	百式サクセッション <10/28～30、11/11～13>	80
音楽	空間現代	「ライブハウスsoto」オープングライブシリーズ <7/1～31>	50
美術・デザイン	平田剛志	High-light scene/ハイ-ライトシーン <5/4～22>	30
美術・デザイン	濱脇奏	個展「橙」 <8/11～21>	30
美術・デザイン	稲垣智子	The Day It Is Raining. (その日はずっと雨が降っている)シェフィールド、ハンブルグ巡回展 <4/15～5/15>	30
舞台芸術	一般社団法人HMP	エイチエムピー・シアターカンパニー<同時代の海外戯曲>アラビアの夜 <2017/3/24～26>	25
舞台芸術	コンプリ団	コンプリ団その9 Re:ブリックス「カラカラ」 <9/2～5>	25
舞台芸術	階	石の階公演「投了(仮題)」 <2017/1/12～15>	25
舞台芸術	特定非営利活動法人劇研	走りながら眠れ <2017/1/20～22>	25
音楽	内尾文香	オーギュスタン・デュメイ氏のレッスン受講 <4～9月>	20

個別寄金

寄金名	申請者	活動名 <活動期間>	交付額(万円)
匿名寄金(インディーズバンド支援)	平井孝明	クールジャパン・アダルトロック <6/19>	5
北倶楽部基金(北区での文化活動支援)	モンゴルズシスターカンパニー	『鼠』 <7/9～22>	45
巧寄金(美術・デザイン支援)	中山自然美術館実行委員会+天王寺学館高等学校芸術コース	“芸術の花”種まきプロジェクト2016-中山自然美術館を肥やしに-<2016/4/1～2017/3/31>	60

山村友五郎の世界 ～ Dance & talk “上方舞” tonight !! ～

—— 2015年12月22日 / クラブ関西 ——



山村友五郎さん

関西・大阪を拠点に活躍する優れたアーティストを紹介する「アート・アセンブリー（関西・大阪21世紀協会主催、クラブ関西協力）」が昨年第7回を迎え、日本舞踊・上方舞 山村流六世宗家の山村友五郎さんによる、優美で物語性に富む上方舞が披露された。今回はOSK日本歌劇団のトップスター高世麻央さんも加わり、上方舞とゆかりの深い上方落語の桂吉坊さんのナビゲートで、バラエティーに富む内容となった。

山村友五郎さんが披露したのは、上方唄「愚痴」と地唄「八島」。「愚痴」は、恋する人を待ち焦がれて揺れる女心を唄ったもので、友五郎さんの舞には、しっとりとした女の色気が香り立つのだった。「八島」は扇を2枚使い壇ノ浦の源平合戦での修羅場を表現する雄壮な舞で、約80名の参加者は趣きの異なる2つの舞に、上方舞の奥深さを知ることとなった。

山村友五郎さんは1964年大阪市生まれ。江戸時代から伝わる座敷舞と歌舞伎舞踊の二つの流れをもつ山村流上方舞の伝統を継承してきた。2014年7月に流祖の名跡「山村友五郎」を120年ぶりに復活させ、三代目を襲名。同年9月、



桂 吉坊さん

長男の四代目若襲名と合わせ、国立文楽劇場（大阪市）で日本舞踊界を代表する各流派の家元を招いて襲名披露公演「舞扇会」を開催し、その成果によって2014年度大阪文化祭賞・最優秀賞を受賞した。

一方、OSK日本歌劇団も2010年の公演作品「バンディット～霧隠才蔵外伝～」で大阪文化祭賞グランプリを受賞し、同作に主演した高世麻央さんの優れた演技が高く評価された。高世さんは、「MY BLUE ROSE」など5曲を、同団の恋羽みうさんと千咲えみさんとともに披露した。

OSK日本歌劇団は今年で創立94年。浪速の春の風物詩として知られるレビュー「春のおどり」は、初代山村友五郎の座敷舞や舞踊の系譜に連なるといわれている。高世麻央さんのトップスターお披露目公演（2015年）の「レビュー 春のおどり」の第1部「道頓堀開削400年・浪花今昔門出展」では、山村友五郎さんが構成・演出・振付を行った。トークコーナー



高世麻央さん(右)と恋羽みうさん(左)

では、38名の団員全員に振り付けた時の思い出や、高世さんの舞台に上がるまでの努力など、数々の興味深い体験談も披露された。

終演後は、出演者を囲んで交流会を開催。出演者と観客が直接ふれあえる機会とあって、さまざまな話題で盛り上がった。

山村友五郎（三代目）

芸術選奨文部科学大臣賞（2010年）、日本伝統文化振興財団賞（2014年）、大阪文化祭賞最優秀賞（2015年）、日本芸術院賞（同年）など受賞多数。一門の指導育成に加え、東京の舞踊家と「五耀会」公演を定期的に行うなど、多彩な活動で全国的に注目される。

OSK日本歌劇団

1922年に松竹楽劇部として創立。1970年に現在の劇団名となり、1971年～2003年まで近鉄グループ傘下で活動。解散後は「OSK存続の会」が活動を支援し、2009年より株式会社OSK日本歌劇団として活動。

アート・アセンブリーの開催は賛助会員様への「関西・大阪21世紀だより」や協会ホームページでご案内し、先着順にて参加受付を行っています。



松永正津氏作
ヒラマサ(1m60cm・39.75kg)
平成26(2014)年2月20日

大阪で磨いた技法を世界へ発信 「アート魚拓」の第一人者・松永正津氏

釣りの周辺にはさまざまな文化がある。そのひとつ「魚拓」は、江戸時代に庄内藩(山形県鶴岡市)で発祥したといわれる日本の伝統文化である。天保10(1839)年、藩主の酒井忠発(ただあき)が、江戸住まいの折に錦糸堀(現在の東京都墨田区錦糸町)で釣り上げた39センチの鮒の拓が最古とされ、鶴岡郷土資料館に保存されている。藩では武士としての心身の鍛錬に磯釣りが奨励され、大物を討ち取った敵将の首に見立て、拓を採って藩主に差し出したといわれている。

魚拓には、魚の上に乘せた布または和紙の上からタンポで墨や絵の具をつける「間接法」と、魚体にじかに墨や絵の具を塗って写し取る「直接法」がある。忠発の鮒の拓は直接法で、松永正津氏(大阪市)はその技法を発展させ、芸術の域に高めた「アート魚拓」の第一人者である。

「魚の色に合わせて色を付けるのではなく、自分が思う色で魚の上に絵を描き、それを写し取る感覚。だからカラー(色付き)魚拓ではなく、意図して創作したアート魚拓なのです」

制作にあたっては、魚に塗った絵の具が乾かないうちに和紙に写さなくてはならない。その時間は魚の大きさに関係なく30分前後、気温や湿度も影響する。もちろん後で加筆したり、再度魚に色を塗って拓を採り直すようなことは一切せず、最後に筆を入れるのは目玉だけ。真剣勝負だからこそ、制作に入るまでの準備を入念に行い、前日から心身の調子を整え、制作に入れば一気呵成の集中力が必要だという。そうして魚と対峙する姿は、まさに「魚拓道」というにふさわしく、釣行を戦に喩えた武士の心髄にもつながるものである。

松永氏が直接法魚拓をはじめたのは昭和36



(1961)年。少年時代から絵画に親しみ、後年、日本画家・満田天民(1905～85)にも師事した



松永氏のアート魚拓には、静謐で凜とした日本画の佇まいが漂う。予期せぬ色のかすれや滲みにも“味わい”を見出し、背景には何も描かない。その空白こそが、魚が生きている場所すなわち“水中”の表現なのである。絵画ではない、新たな魚拓の世界を追求した結果の境地だという。

身の締まった新鮮な魚ほど、仕上りが良い。関西に朝廷がおかれていた古代、天皇に魚介類を献上していたのは鳥羽、越前、そして茅渟(ちぬ)の海の古称をもつ大阪湾で、関西は好漁場に恵まれた「御食国(みけつくに)」と呼ばれていた。つねに新鮮な魚が手に入る関西・大阪なればこそ、魚拓文化が一層発展したのであろう。

50年以上魚拓に携わってきた松永氏は、日本各地で展覧会や講習会を開き、昨年の第66回全国カレンダー展では、作品を掲載した『2015シマノ魚拓カレンダー』が経済産業省商務情報政策局長賞と金賞を受賞した。著書は中国でも出版され、今年2月には、中国・天津市で開催の「碧海2016年春季フィッシングショー・第4回中外魚拓展」に参加。開会の挨拶や実演、トークイベントなどを行った。松永氏は、日本発祥の魚拓文化を世界に広めるべく、中国や韓国などアジア各地での活動も精力的に行っている。

松永正津(まつなが まさつ)氏
東洋魚拓 拓正会会長
東方龍脈魚拓芸術学会顧問(中国)
天陽会顧問
歴、元展美術協会理事審査員(日本画)

平成2015年度下半期事業のご報告

関西・大阪21世紀協会は、「交流と助成」「発掘と発信」「伝統と創造」を事業の3本柱として推進しています。そのなかで2015年10月～2016年2月に協会が主催、参画した事業をご報告します。

交流と助成

日本万国博覧会記念基金事業やアーツサポート関西事業、大阪文化祭賞事業(本号p8～14)をはじめ、関西・大阪を拠点に活動するアーティストに発表の場を提供し、支援の輪を広げる取り組みです。

新進アーティストに飛躍のチャンス アートストリーム2015

2015年11月13～15日／大丸心齋橋店

主催：アートストリーム実行委員会

(関西・大阪21世紀協会、大阪芸術大学、大阪府、大阪市)

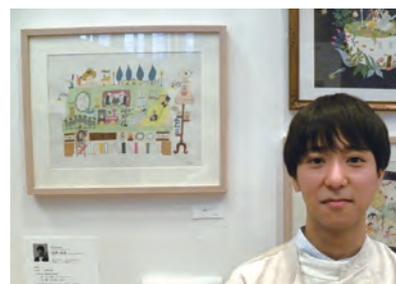
関西を拠点に活動する新進アーティストに、発表とビジネスマッチングの場を提供する目的で毎年開催される「アートストリーム」。第15回となる今年度は、「アートの殻を突き破る表現者たち・未来の才能に会う展覧会」と題し、絵画、イラスト、クラフトなど一般公募で選ばれた90名のさまざまな作品が出品され、3日間でのべ約3,700人の来場者で賑わいました。

絹谷幸二氏(大阪芸術大学教授、文化功労者)が審査委員長のアワード選考では、白子侑季さん(グラフィックデザイン、インスタレーションビュー)にグランプリが贈られました。白子さんは前年に引き続き2度目の参加で、自分の唇を身体の一部とコラージュした『クチビルマミレ』を出品。「10年以上創作活動を続けてきて、家族や友人など応援してくれる多くの人たちにやっと喜んでもらえる結果を出せた。これを励みに作品をさらに進化させ、海外での展覧会にも挑戦したい」と声を弾ませました。

また、仕事のオファーや個展開催などが副賞となる「企業・ギャラリー賞」は、浅野成亮 seisuke さん(イラストレーション／関西・大阪21世紀協会賞)や谷田有似さん(切り絵／アーツサポート関西賞)が受賞。奨励賞や来場者の投票で決めるオーディエンス賞を含め、全24賞・18名が受賞しました。



白子侑季さん(グランプリ受賞)



浅野成亮seisukeさん(関西・大阪21世紀協会賞受賞)

発掘と発信

大阪の歴史的資産や伝統行事の発掘、研究を深めるとともに、各界の有識者を交えて関西・大阪における文化の諸問題を探り、その成果を発信します。

フィールドワークで大阪の歴史・文化を探る 南大阪・上町台地フォーラム

2015年10月22日(第1回：弥生文化博物館／和泉市)

12月4日(第2回：富田林寺内町／富田林市)

フィールドワークを通して大阪南部地域の歴史や伝承などを探る企画。今年度の第1回は「日本の文化と食の源流」をテーマに、和泉市の弥生文化博物館と池上曾根遺跡を訪ねました。参加者は、弥生文化全般を対象とする全国でただ一つの博物館で、学芸員から米づくりや青銅器や鉄器の発祥、社会の仕組みができていった過程や卑弥呼の登場など、弥生時代の文化や生活について説明を受けました。同館に隣接する池上曾根遺跡では、大型掘立柱建物を見学しました。

第2回は、近世以降、南河内一の商業地といわれた富田林寺内町(じないまち)を探访しました。当地は室町時代後期の永祿初頭(1558～1561年)に興正寺別院の建立と町割の建設によってできた宗教自治都市で、江戸時代には商売が盛んな在郷町として発展したところ。平成9(1997)年には、国の重要伝統的建造物保存地区に選定され、参加者は、ボランティアガイドの案内で、往事の繁栄を物語る商家の町並みや創建当時から残る町割りを見学しました。



弥生文化博物館にて(2015年10月22日)



富田林寺内町にて(2015年12月4日)

交流サロン 21cafe

現代アート経済学

宮津大輔氏 (アートコレクター)

2015年11月5日 / 中之島プラザ

『現代アートを買おう』『現代アート経済学』の著書がある宮津氏は、企業に勤めるかたわら、収集したコレクションやアーティストと共同で建てた自宅が国内外の展覧会に出品された話題の人。21cafeでは、アート作品を金融商品のひとつとして捉え、アーティスト別の売上やオークションでの年間落札合計額などを示して、現在のアート市場の傾向について解説しました。また、アート界を動かす人々やその役割について紹介し、20世紀はギャラリーの時代であったが、「21世紀はアートフェア(画商が一堂に会し、作品を展示販売する催し)の時代にある」と指摘。インターネットやSNSでアーティストの作品が多くの人に知られる現代にあっては、優れたアーティストが発掘されやすい状況にあると述べました。



宮津大輔氏

これからの関西

宮野谷篤氏 (日本銀行 理事 大阪支店長)

2015年12月9日 / 中之島センタービル

宮野谷氏は、2014年以降の関西経済について、生産・輸出・設備投資や外国人観光客による消費が全国よりも堅調であるとし、雇用や賃金も着実に回復が続いていると分析。近年は中国内陸部でも所得が増加する傾向にあり、中国人観光客は今後も一段と増加するだろうと予測しました。また、関西は女性配偶者の収入の低さ(就業率の低さ)が世帯当たりの収入を押し下げる構造になっていると指摘。関西は全国の中でも女性の大学進学率は高いにもかかわらず、女性の就業率が低く、この傾向はとりわけ大阪府で顕著であるとし、就業率を向上させる取り組みが必要だと強調しました。さらには介護ロボットやiPS細胞など、高齢化社会にあって新規需要につながる技術や知見は関西に集中していることをあげ、「高齢化は需要減少には結びつかない」「高齢者や女性の労働参加が関西の活性化を促す」と述べました。



宮野谷篤氏

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

鈴木香織氏

(内閣官房 東京オリンピック競技大会・

パラリンピック競技大会推進本部事務局 内閣参事官補佐)

2016年2月8日 / 中之島プラザ

鈴木氏は、2015年11月27日に閣議決定された東京オリンピック・パラリンピックの「基本方針」の中に、「日本文化の魅力の発信」を掲げていることを紹介。日本には、伝統的な芸術をはじめ現代舞台芸術、最先端技術を用いたアート、デザイン、クールジャパンとして世界が目にするコンテンツ、メディア芸術、ファッション、地域性豊かな和食、日本酒、祭り、工芸品、和装、花、日本建築など多様な文化があると、これらを通じて日本全国で大会の開催に向けた機運を醸成しようと呼びかけました。また、日本文化の魅力を世界に発信し、地方創生、地域活性化につなげることが大事だとし、それに向けて関係府省庁等連絡会議を設置するとともに、仕掛けづくりなどのアイデアを募るため、遠藤利明大臣(東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当)と有識者との意見交換を開始したと述べました。



鈴木香織氏

上方文化芸能や上方伝統行事などの無形文化遺産の保護・育成を目的として、当協会が実行委員会に
参画したり、当協会の上方文化芸能運営委員会が実施・協賛しています。

今宮戎神社宝恵駕行列への助成・協力

2016年1月9日／大阪ミナミ(道頓堀～今宮戎神社)
関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会

元禄時代、商売繁盛を祈願して、大阪ミナミの芸妓衆を華やかに飾り付けた駕籠に担ぎ、今宮戎神社・十日戎に参詣したことに始まる宝恵駕(ほえかご)行列。最盛期は明治・大正・昭和(戦前)で、百挺もの駕に芸妓が担がれ、華麗を競い、盛大に賑わいました。芸妓が少なくなった今は、芸妓代表を先頭に芸能人たちが駕に担がれ、今年もミナミから今宮戎神社へと続く道が多くの参拝客や海外からの観光客で賑わいました。200年以上も続くこの行列は、無形民俗文化財に指定されています。

関西・大阪21世紀協会の上方文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。



今年の芸妓代表・佳世子さん

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2016年2月3日／堂島薬師堂および周辺
主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

大阪キタの賑わい創出と水都大阪の再生をめざし、2004年にはじまった「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」。今年で13回目を迎え、堂島薬師堂(大阪市北区)で奈良薬師寺の山田法胤管主による節分法要と薬師寺で祈祷された「お香水(こうずい)」を汲む「お水汲み」が行われました。堂島アバンザの特設会場では、多くの見物客が集まるなか、薬師寺僧侶たちによる日本の歌謡の原点といわれる「声明(しょうみょう)」や北新地芸妓衆による舞の奉納、北新地ホステスらによる「お化け(仮装)」などが行われました。今回は文楽人形遣いの吉田簗二郎さんが曾根崎心中のヒロイン「お初」人形とともに参加し、総勢約150人が夕暮れの北新地を練り歩きました。当協会の堀井良殷理事長は、この行事の共同実行委員長を務めています。



山田法胤管主よりお香水を受ける吉田簗二郎さんとお初人形(堂島アバンザ会場)

トピックス・ニュース

吉田玉男さんがニューパワー賞を受賞 平成27年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2016年1月21日／リーガロイヤルホテル大阪



吉田玉男さん(祝賀会にて)

文化を通じて関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる「関西元気文化圏賞(関西元気文化圏推進協議会・森詳介会長)」。その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われ、文楽人形遣いの吉田玉男さんに、「ニューパワー賞」が贈られた。ニューパワー賞は、とくに将来性が期待される人や団体に対して贈られる。吉田玉男さんは1968年に初代吉田玉男に弟子入りして以来、立役(男役)中心に活躍。2015年4月に師匠の名跡である吉田玉男を襲名し、文楽界を支える大黒柱のひとりとして今後の活躍が期待されている。平成27年度の各賞受賞者は以下の通り。大賞：姫路城(姫路市)/特別賞：高野山真言宗総本山金剛峯寺、琳派400年記念祭委員会/ニューパワー賞：吉田玉男(文楽人形遣い)、又吉直樹(芸人)、チームラボ(アート、クリエイティブ集団)、すなば珈琲。(敬称略)

文化を通じて関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して贈られる「関西元気文化圏賞(関西元気文化圏推進協議会・森詳介会長)」。その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われ、文楽人形遣いの吉田玉男さんに、「ニューパワー賞」が贈られた。ニューパワー賞は、とくに将来性が期待される人や団体に対して贈られる。吉田玉男さんは1968年に初代吉田玉男に弟子入りして以来、立役(男役)中心に活躍。2015年4月に師匠の名跡である吉田玉男を襲名し、文楽界を支える大黒柱のひとりとして今後の活躍が期待されている。平成27年度の各賞受賞者は以下の通り。大賞：姫路城(姫路市)/特別賞：高野山真言宗総本山金剛峯寺、琳派400年記念祭委員会/ニューパワー賞：吉田玉男(文楽人形遣い)、又吉直樹(芸人)、チームラボ(アート、クリエイティブ集団)、すなば珈琲。(敬称略)



主催者と受賞者

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費1万円

お問合せ(公財)関西・大阪21世紀協会 総務部

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など